

子牛の臍の感染症に注意

2013年10月1日

臍帯(さいたい)とは、子牛が母牛のおなかにいる間に栄養を受け取ったり、老廃物を排泄する管のことです。(図1)

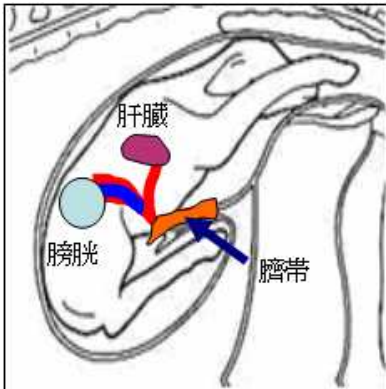


図1 獣医繁殖学より引用

生まれるときに自然に切れて腹の中に退縮するのですが、乾燥して縮むまでには数日かかります。この間に細菌に感染してしまうと、臍帯炎といって臍の部分が増れて化膿したり(図2)発見が遅れると腹腔内まで細菌が侵入して肝臓や膀胱、全身へとまわり、関節炎になってしまうこともあります。そうならないために・・・



図2 テレビドクター3より引用

1.乾燥した清潔な環境

細菌は湿潤な環境が大好きです。乾いた環境で分娩、飼育すれば、臍も早く乾燥します。臍帯炎の予防で最も大切です！



2.臍の消毒

臍が乾燥するまで、毎日消毒しましょう。

7%ポピドンヨード、ヨーチン、0.5%クロルヘキシジンが効果的です。（濃度にも注意！乳頭ディッピングの濃度では薄すぎます。）

臍にまんべんなくスプレーするかディッピングしましょう。

臍の内部への消毒液の注入は、濃度が濃すぎてかえって炎症を引き起こしてしまうため、やめましょう。

乳房炎軟膏の注入は、耐性菌の問題からお勧めできません。



3.初乳

みなさんご存知のとおり子牛は免疫を持たずに生まれてきます。生後6時間以内に3～4ℓを与え、細菌に対する抵抗性を高めましょう！

